



2011年6月15日発行（隔月刊）



う 羽 化 か

ISSN1880-8646
2011年6月
第 86 号

横 浜 漢 点 字 羽 化 の 会
〒231-0851 横浜市中区山元町2-105 Tel 045-641-1290
発行責任者 代 表 岡 田 健 嗣
編集責任者 木 下 和 久



目 次

漢点字の散歩 (25) (岡田健嗣)	1
点字から識字までの距離 (82) (山内 薫)	9
東京漢点字例会報告とわたくしごと (木村多恵子)	12
東京漢点字学習会報告 (菅野良之)	15
『字解』音訳プロジェクト、ご参加のお願い	18
ご報告とご案内	21
漢文のページ	23
漢点字講習用テキスト(初級編・第26回)	26
編集後記 (木下和久)	27

漢点字の散歩 (二十五)

岡田 健嗣

漢点字紹介 (八)

4. 漢点字のご紹介



⑤ 複合文字 (2)

a. 比較文字と発音文字を含む複合文字

ここでは、第一基本文字・漢数字と、比較文字・発音文字で構成される文字をご紹介します。

(1)

人偏 + 中
チュウ なか

人偏の右側に中が置かれた文字です。人と人をつなぐ、仲立ちをするという意味があります。漢点字では「𠂇」で人偏を、「中」で中を表します。

熟語… 𠂇𠂇 (仲人) 𠂇𠂇 (仲間)

(2)

中 / 心
チュウ

中の下に心が置かれた文字です。「まごころ、ただしい」という意味を表します。漢点字では、「𠂇」で中を、「心」で心を表します。

熟語… 𠂇𠂇 (忠孝) 𠂇𠂇 (忠臣蔵)

(3)

草冠 / 右
ジャク ニヤク わかい

草冠の下に右が置かれた文字です。「わかい」と訓読しますが、漢文訓読では「もしも、もしくは、ごとし」と読みます。漢点字では、「𠂇」で草冠を、「右」で右を表します。

熟語… 𠂇𠂇 (若干) 𠂇𠂇 (若菜)

(4)

人偏 + 左
サ

人偏の右側に左が置かれた文字です。「たすける」という意味があります。漢点字では、「𠂇」で人偏を、「左」で左を表します。第二人偏を採用しました。

熟語… 補𠂇 (補佐)

(5)

器
キ うつわ



“口十口” / 大 / “口十口”

大の上下四隅に口が配された文字です。物を入れる「うつわ」を表します。漢点字では、「𠄎」で大を、「𠄎」で口を表します。四つの口を、一つで表していただきます。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (食器) 𠄎𠄎𠄎 (花器)

(6) 𠄎𠄎 因 イン よる

口 (国構え) > 大

国構えの中に大が置かれた文字です。人が寝具の上に、ゆったりと身を伸ばして休んでいる様子を表します。漢点字では、「𠄎」で国構えを、「𠄎」で大を表します。

熟語… 原 𠄎𠄎 (原因) 𠄎𠄎 果 (因果)

(7) 𠄎𠄎 恩 オン

因 / 心

因の下に心が置かれた文字です。大事にされる、慈しむことを表します。漢点字では、「𠄎」で因を、「𠄎」で心を表します。

熟語… 𠄎𠄎 恵 (恩恵) 厚 𠄎𠄎 (厚恩)

(8) 𠄎𠄎 毎 マイ ごと

ノ一 / 母

頭の毛を結った女性を象った文字です。主婦が日常の仕事をこなしている様子を表します。漢点字では、「𠄎」でノ一を、「𠄎」で母を表します。

熟語… 𠄎𠄎 毎 (毎日) 𠄎𠄎 朝 (毎朝)

(9) 𠄎𠄎 海 カイ うみ

さんずい + 毎

さんずいの右側に毎を置いた形の文字です。「うみ」を表します。漢点字では、「𠄎」でさんずいを、「𠄎」で毎を表します。

熟語… 𠄎𠄎 日本海 (日本海)

(10) 𠄎𠄎 底 テイ そこ

广 (まだれ) > “氏 / 一”

广 (まだれ) の中に低の旁である氏と一が置かれた文字です。物の最も下のところを意味します。漢点字では「𠄎」で广を、「𠄎」で低の旁を表します。

熟語… 𠄎𠄎 底力 (底力) 𠄎𠄎 海底 (海底)

(11) 𠄎𠄎 込 こむ

しんによう + 入
しんにようの右側に入が置かれた文字です。建物などの中に入り込むことを意味します。わが国で作られた国字です。漢点字では、「𠄎」でしんにようを、「𠄎」で入を表します。

(12) 浪 ロウ なみ

さんずい + 良
さんずいの右側に良が置かれた文字です。水面をゆったりと動く波を表します。漢点字では、「𠄎」でさんずいを、「𠄎」で良を表します。

熟語… 浪 (浪人) 波 (波浪)

(13) 良 + おおざと

良の右側におおざとが置かれた文字です。男性を意味します。漢点字では、「𠄎」で良を、「𠄎」でおおざとを表します。

熟語… (太郎)

(14) さんずい + 可

河 カ

かわ

さんずいの右側に可が置かれた文字です。大きな流れを意味します。中国では、黄河を指します。漢点字では、「𠄎」でさんずいを、「𠄎」で可を表します。

(15) 奇 キ くしくも

大 / 可

大の下に可が置かれた文字です。「めずらしい、あやしい」という意味を表します。漢点字では、「𠄎」で大を、「𠄎」で可を表します。

熟語… 怪 (奇怪) 拔 (奇抜)

(16) 奇 キ よる よせる

ウ冠 / 奇

ウ冠の下に奇が置かれた文字です。「たよる、よりかかる」という意味を表します。漢点字では、「𠄎」でウ冠を、「𠄎」で奇を表します。

熟語… 寄附 (寄附) 寄宿 (寄宿)

(17) 凍 トウ こおる

𠄎 (にすい) + 東

𠄎 (にすい) の右側に東が置かれた文字です。水が

凍って固まることを表します。漢点字では、「𠄎」で
𠄎(にすい)を、「𠄎」で東を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎(凍土) 𠄎𠄎𠄎結(凍結)

(18) 𠄎𠄎𠄎練 レン ねる

糸偏 + 東

糸偏の右側に東が置かれた文字です。繭から取った
糸を撚り合わせて、丈夫で美しい絹糸を作ることの意
味します。漢点字では、「𠄎」で糸偏を、「𠄎」で東
を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎習(練習) 𠄎𠄎𠄎り絹(練り絹)

(19) 𠄎𠄎𠄎価 カ あたい

人偏 + 西(西に似た形)

人偏の右側に西に似た形が置かれた文字です。右側
の旁は商人を表して、物の価値を決めることを意味し
ます。漢点字では、「𠄎」で人偏を、「𠄎」で西に似
た形を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎値(価値) 評𠄎𠄎𠄎(評価)

(20) 𠄎𠄎𠄎要 ヨウ いる かなめ

西(西に似た形) / 女

西に似た形の下に女が置かれた文字です。西に似た
形は、人の腰の形を象っています。腰は首とともに、
人の身体の大切な部分です。そこでこの文字は、「か
なめ」という意味を表します。漢点字では、「𠄎」で
西に似た形を、「𠄎」で女を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎(要点) 𠄎𠄎𠄎𠄎(必要)

(21) 𠄎𠄎𠄎献 ケン たてまつる

南 + 犬

南の右側に犬が置かれた文字です。神に供え物を供
えることを表します。漢点字では、「𠄎」で南を、
「𠄎」で犬を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎𠄎(献金) 𠄎𠄎𠄎𠄎血(献血)

(22) 𠄎𠄎𠄎背 ハイ せ そむく

北 / 肉月

北の下に月(肉)が置かれた文字です。北に「せ、
そむく」の意味があります。身体の部分を表す肉月が
加えられて、人の背を意味する文字となりました。漢
点字では、「𠄎」で肉月を、「𠄎」で北を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎面(背面) 𠄎𠄎𠄎文(背丈)

(23) 言偏 + 寸 トウ うつ

言偏の右側に寸が置かれた文字です。敵を討ち滅ぼすことを意味します。また言葉を戦わせること、論戦を挑むことを表します。漢点字では、「寸」で言偏を、「寸」で寸を表します。

熟語… 伐 (討伐) 論 (討論)

(24) 土 / 寸 寺 ジ てら

土の下に寸が置かれた文字です。仏教の「てら」を意味します。漢点字では、「土」で土を、「寸」で寸を表します。

熟語… 寺 (東大寺)

(25) 手偏 + 寺 持 ジ もつ

手偏の右側に寺が置かれた文字です。「もつている、もちつづける」という意味を表します。漢点字では、「手」で手偏を、「寺」で寺を表します。

熟語… 持 (持続) 久 (持久力)

(26) 言偏 + 寺 シ うた

言偏の右側に寺が置かれた文字です。漢詩を指す文字です。現代では散文に対して韻律に沿った文、詩歌全般を指して用いられます。漢点字では、「言」で言偏を、「寺」で寺を表します。「言」を区別するために、第二言偏を採用しました。

熟語… 歌 (詩歌) 新 (新体詩)

(27) 馬偏 + 尺 馬 尺 エキ うまや

馬偏の右側に尺が置かれた文字です。街道沿いに馬を取り替えるために設けられた施設です。現在では鉄道の停車場を指します。漢点字では、「馬」で馬偏を、「尺」で尺を表します。

熟語… 伝 (駅伝) 馬車 (駅馬車)

(28) さんずい + 尺 タク さわ

さんずいの右側に尺が置かれた文字です。水の潤いという意味です。漢点字では、「さんずい」で尺を、「尺」でさんずいを表します。左右が逆になっています。

熟語… 山 (沢山) 光 (光沢)

(29) 祈 キ いのる

ネ (示) 偏 + 斤

示偏の右側に斤が置かれた文字です。神に祈りを捧げることを意味します。漢点字では、「𠄎」で示偏を、「𠄎」で斤を表します。

熟語… 願 (祈願) 禱 (祈祷)

(30) 近 キン ちかい

しんによウ + 斤

しんによウの右側に斤が置かれた文字です。距離が近いこと、関係が近いことを表します。「𠄎」でしんによウを、「𠄎」で斤を表します。

熟語… 距離 (近距離) 親者 (近親者)

(31) 慣 カン なるる

立心偏 + 貫

立心偏の右側に貫が置かれた文字です。何度も繰り返して、慣れることを意味します。漢点字では、「𠄎」で立心偏を、「𠄎」で貫を表します。

熟語… 習 (習慣) 用句 (慣用句)

(32) 約 ヤク

糸偏 + 勺

糸偏の右側に勺が置かれた文字です。「むすぶ、おおよそ」の意味を表します。漢点字では、「𠄎」で糸偏を、「𠄎」で勺を表します。

熟語… 束 (約束) 条 (条約)

(33) 昇 ショウ のぼる

日 / 升

日の下に升が置かれた文字です。日が昇ることを意味しますが、現在では昇降機のように、上へ上がること一般に用いられます。漢点字では、「𠄎」で日を、「𠄎」で升を表します。

熟語… (上昇) 降 (昇降)

(34) 科 カ しな とが

禾 (ノ木) 偏 + 斗

禾偏の右側に斗が置かれた文字です。穀物を選び分けたり量を量ったり、品定めすることを意味します。漢点字では、「𠄎」で禾を、「𠄎」で斗を表します。

熟語… (科学) (学科)

(35) 門構え > ソ・天 関 カン せき かかわる

ソ・天の形は、かんぬきで戸を閉ざす形を象つていて、この文字は門を固く閉ざすことを表します。関わり合うこと、あるいは要所にある関所を意味します。漢点字では、「𠄎」で門構えを、「𠄎」でソ・天を表します。

熟語… 𠄎𠄎係 (関係) 𠄎𠄎節 (関節)

(36) 夫 + 見 規 キ

夫の右側に見が置かれた文字です。この文字の夫は、円を描く道具であるぶんまわし(コンパス)の象形で、この文字は、道具を使って円を描くことを表します。漢点字では、「𠄎」で夫を、「𠄎」で見を表します。

熟語… 𠄎𠄎則 (規則) 定𠄎𠄎 (定規)

(37) 糸偏 + 氏 紙 シ かみ

糸偏の右側に氏が置かれた文字です。「かみ」を意

味する文字です。紙は、八世紀にアラビアに伝わり、アラビアからヨーロッパに伝わりました。漢点字では、「𠄎」で糸偏を、「𠄎」で氏を表します。

熟語… 𠄎𠄎幣 (紙幣) 新𠄎𠄎𠄎 (新聞紙)

(38) 目偏 + 良 (コン) 眼 ガン まなこめ

目偏の右側に良の近似文字である良が置かれた文字です。じつと見詰める目を意味します。漢点字では、「𠄎」で目を、「𠄎」で良を表します。

熟語… 𠄎𠄎𠄎 (眼下) 𠄎𠄎𠄎 (眼科)

(39) 𠄎𠄎限 ゲン かぎり かぎる

こごと偏の右側に良の近似文字である良が置かれた文字です。神域を守る様子を表します。神の領域と人の住む所を区切ることを意味しています。漢点字では、「𠄎」でこごと偏を、「𠄎」で良を表します。

熟語… 𠄎𠄎界 (限界) 制𠄎𠄎 (制限)

(40) 丘・八 兵 ヘイ つわもの

丘・八

丘の下に八の形が置かれた文字です。上は丘ではなく斤(おの)の形で、人が斤(武器)を手に持って掲げているところを象っています。兵士や武器を意味します。漢点字では、「𠄎」で丘を、「𠄎」で八を表します。

熟語… 𠄎 𠄎 士 (兵士) 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 (兵器)

(41) 𠄎 𠄎 魅 ミ

鬼 + 未

鬼の右側に未が置かれた文字です。もののけやすだまを意味して、人を惑わしたり傷つけたりすると恐れられました。漢点字では、「𠄎」で鬼を、「𠄎」で未を表します。

熟語… 𠄎 𠄎 𠄎 (魅力) 𠄎 𠄎 𠄎 (魅惑)

(42) 𠄎 𠄎 坂 ハン さか

土偏 + 反

土偏の右側に反が置かれた文字です。反は、崖をよじ登る形を象っていますが、この文字は、上り下りする坂道を意味します。漢点字では、「𠄎」で土偏を、「𠄎」で反を表します。

熟語… 急 𠄎 𠄎 (急坂) 𠄎 𠄎 𠄎 道 (坂道)

(43) 𠄎 𠄎 阪 ハン さか

こざと偏 + 反

こざと偏の右側に反が置かれた文字です。先の「𠄎」の異体字です。漢点字では、「𠄎」でこざと偏を、「𠄎」で反を表します。

熟語… 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 (大阪市)

(44) 𠄎 𠄎 飯 ハン めし いい

食偏 + 反

食偏の右側に反が置かれた文字です。元は食べることを意味しましたが、現在では主食の米飯を意味します。漢点字では、「𠄎」で食偏を、「𠄎」で反を表します。

熟語… 米 𠄎 𠄎 (米飯) 𠄎 𠄎 𠄎 盒 (飯盒)

(45) 𠄎 𠄎 眠 ミン ねむる

目偏 + 民

目偏の右側に民が置かれた文字です。床に就いて眠ることを意味します。漢点字では、「𠄎」で目偏を、「𠄎」で民を表します。

熟語… 𠄎 𠄎 𠄎 𠄎 (安眠) 睡 𠄎 𠄎 (睡眠)

点字から識字までの距離（八十二）

盲学校・ろう学校生のインターンシップ（六）

山内 薫（墨田区立あずま図書館）

その日の午後は墨田区の障害者サービスマスター担当者が集まる会議に参加してもらった。その日の議題は次のようなものだった。

一、音訳者養成講座（初級）について

受講者選考（採点表配布）

受講希望の一名から出された課題の点数表を配り採点結果を報告。今回は全員合格となった。合格通知はあずま図書館で出す。（毎年開催している音訳者養成講座初級では受講見申込者の適性を計るため熟語の読みの課題五〇題と折々のうたの一日分を録音してもらって課題を課している。自分で調べて回答してもらって熟語の課題を一〇以上間違えた人、折々のうたに出てくる「宝生流」と「速水御舟」を間違えて読んだ人は要注意とし、余りひどい人は受講を遠慮して頂いている。二〇人に一人くらいは適性を欠いた人が出てくる）

二、「二四時間テレビ」寄贈の障害者サービス

機器の搬入日程の決定

三、インターンシップ・図書館実習について

文京盲学校 八月四・五日 インターンシップ

白百合女子大 八月四日～九日 障害者サービス

を中心とした図書館実習二名

葛飾ろう学校 八月一日～一四日 インターン

シップ

（この年は例年になく実習生が多かった。白百合女子大に関しては実習が取得単位になっている）

四、二二年度予算について

八広図書館からの高齢者施設で使う「ワイヤレスマイク、スピーカーセットとプロジェクター」の要望が出ている。あずま図書館ではプレクストークPTP1を備品として要求したい。

五、点訳図書 の 保管 について

点訳図書は現在紙に打ち出したものを緑図書館で保管しているが、今後データで保管する方向で考えた。データのないものについてはむずかしいが、データのあるものについては点訳グループの協力を得ながら、必要に応じて打ち出すことにする。データはハードディスクに保管しておく。そのため外付けハードディスク一六〇ギガのものを購入する。

六、墨田福祉作業所への見学等について

一二日に福祉作業所に見学に行く、作業所で貸出する図書を運ぶ配本連絡車の予算を要求する。

（「うか」七八号～八〇号参照）

七、統計について

東京の都立中央図書館の障害者サービス調査が様式

を変えたので、それに合わせて墨田区の障害者サービスの統計の取り方も変更し、各館で共通認識を得たい。宅配の回数は出勤回数。

障害者サービス用資料の貸出や所蔵タイトル数は原本に換算して数える。

会議中Tさんは私の隣の席に座ってもらい、私がパソコンの画面上に話されている内容を要約して書いていくという方式で会議に参加してもらった。

この会議は一六時半近くまでかかってしまったが、基本的に一六時から一七時までの一時間は「職場実習日誌」を付ける時間にしていたので、急いで障害者サービス室に戻ってもらった。

実習生は日誌の「仕事の内容(具体的に詳しく)」「欄と「反省・感想」欄にそれぞれ記入し、それに対して「実習指導者の講評・助言」欄に私が記入、家に持ち帰って保護者が「家庭より」という欄に記入する仕組みになっている。Tさんは初日の反省・感想欄に次のように記している。

「今日は初日で、その上一人なので緊張しました。皆さんに親切にして頂いた緒陰ですることができませんでした。窓口での仕事も、ちゃんと出来るかすごく不安だったのですが、山内さんのサポートもあり、ひどいミスもなく無事仕事ができたのでホッとしました。まだまだあと三日もあるので頑張ります。」

二日目は午前中漢点字の集まりがあるので、朝図書

館近くのバス停まで岡田さんと木村さんを二人で迎えに行った。いつもは私が自転車で迎えに行き、木村さんは前の籠に、岡田さんはサドルに手を置いてもらって、三人で歩くのだが、その日はTさんがいるので、Tさんに木村さんのガイドをお願いした。図書館の障



バス停から木村さんのガイドをする

害者サービス室に着くと三人の意見交換が始まった。岡田さんや木村さんの質問を私がワープロの画面上に打っていった、その質問を見ながらTさんが回答するという形式で、行った。以下に質問回答などその時に交わされた内容を紹介する。ただしTさんの答えの大半は文字として残していないため今となっては分からない部分もあることをご了承願いたい。

(岡田) 質問です。文字はどうやって憶えたんですか？

(T) 言問小学校で行われていた聞こえの教室には小学校1年から4年まで通い、その後江東聾学校へ転入し、中学からは葛飾ろう学校です。

(岡田) Tさんの話していることは、とてもよく分か

ります。3歳で失聴したようですが、それまでの音声言語がかなりおおきく影響していると思います。それをどう感じていますか？

(岡田) 生まれつき聞こえない人との違いを考えますか？

(岡田) もごも言わないように気をつけます。

(山内) おまんじゅうをプレゼントするそうです。岡田さんは明日清風園で実習の相談をするそうです。介護福祉士の資格を取るための実習だそうです。

(岡田) ありがとうという手話は相撲で懸賞をもらうときの手刀からきているんですね。

(岡田) 言問小学校では手話は教えてくれなかったんですよね。

(T) 要約筆記は要約する人によって違ってしまいます。(岡田) 要約筆記はあとで検証されないので問題です。

(木村) 聾学校のあるところは、足立区にあるのに葛飾聾学校なんですか。北千住で乗り換えですね。方向が逆で電車はすいていて良いですね。(綾瀬下車だが



岡田さん、木村さんと

住所は葛飾区西亀有)

(木村) 聾学校の生徒は何人ですか。中高一緒ですね。クラスは何人ですか？

(T) 六人です。学年は二人五クラスです。

(岡田) クラス分けは聞こえの程度によってですか？

(T) いいえ違います。

(山内) 学校の先生にろうの先生はいますか？

(T) 4分の1です。

(岡田) 漢点字の世界ではルビ(ふりがな)の扱いがとても大変だった。

(山内) 元々振り仮名に小文字はなかったんですけれど、最近は小文字の振り仮名が出てきました。(たとえばハリーポッター)

その後最近デジィ化した本『ブルーストとイカ読書は脳をどのように変えるのか？』(メアリアン・ウルフ著 小松淳子訳 インターシフト 二〇〇八)の話題やベランダ園芸の話などに話は及び対話は「時間半にも及んだのだった。

その日の反省・感想欄「今日は漢点字の集まりがありました。視覚障害の方との交流はあまりないので良かったです。コミュニケーションがうまくとれる心配でした。最初の方では山内さんの要約筆記で質疑応答のような感じでやりました。色々な人と交流ができ、手話を少しですが教えることができ良かったです。」

「東京漢点字羽化の会」例会・講習会報告と

わたくしごと

木村 多恵子

第65回例会 2011年4月6日(水) 13:30〜

15:30、場所、ヒューマンプラザ7階第2会議室

4月20日の『朝日「花をひろう」』の点字印刷をしに、横浜へ行ってくださる方をお二人決めていただきました。今年度は毎月第3水曜日に東京羽化の会が点字印刷できるように予約していただきました。

朝日「花をひろう」の入力、校正のグループに積極的に新しいメンバーの皆様に加わっていただいてローテーションを組んでいただきました。

寺山修司の歌集は新メンバーで入力、校正をしていただき、まとめの責任者を、これまでの会員の中からお一人決め、早速原稿をお持ち帰りくださった。

白川静著の『常用字解』と『人名字解』という、漢字の成り立ちを知る上で重要な本が横浜で作られ、続く、待望の日本の古典である『万葉集』製作に着手された、横浜の皆様の後を追って、「東京漢点字羽化の会」は、この古典を読むための大切な辞書として、『岩波古語辞典』（大野晋編）を漢点字訳していただ

くことで、漢点字の価値をさらに高めようとの、岡田さんのご提案に、皆様からご賛同をいただき、早速準備に取り掛り原本を購入することからはじめる。

会員全員ボランティア保険に加入することにし、会長に手続きをお願いした。

第66回例会 2011年5月11日(水) 13:30〜

15:30、場所、港区ヒューマンプラザ

7階竹芝小ホール

横浜の羽化で新しく作ってくださった「漢点字入力マニュアル」をいただき、東京の皆様にお配りした。これは用例も多くこれまで以上に使いやすいくことで、大いに参考になるようだ。

「羽化85号」もお配りした。

「花をひろう」の入力担当を決めた。

震災でできなかった「花をひろう」の点字印刷を5月5日に、横浜の例会が開かれるのに合わせてIさんが3、4月分を印刷してください、1〜4月分を送ってください。

「岩波古語辞典」については、横浜で作られたマニュアルを使って、各自数ページを入力し、印刷したものを持ち寄ってよりよいものを作るために検討することにした。

「啄木歌集」はまとめの段階に入ったようである。

また、「寺山修司歌集」は、新メンバーが素晴らしい
チーム力で進んでいるので、これも楽しみである。
皆様ありがとうございます。

* 予告

- 6月の例会（例会第67回）、2011年6月8日
（水）、13:30～15:30、ヒューマンプラザ
7階竹芝小ホール
第49回学習会、2011年6月18日（土）18:30～
20:30、ヒューマンプラザ7階第一会議室
7月の例会（例会第68回）、2011年7月6日
（水）、ヒューマンプラザ7階竹芝小ホール
第50回学習会、2011年7月16日（土）18:30～
20:30、ヒューマンプラザ7階第一会議室

わたくしごと

東京漢点字羽化の会では、朝日新聞本紙の付録版と
して、毎週掲載の“be on Saturday”
に連載されている高橋睦郎著「花をひろう」を、昨年
11月から入力し、漢点字印刷して2か月分を1冊に纏
めて、漢点字読者にお送りし始めた。これは横浜漢点
字羽化の会の皆様が長年読者に送り続けてこられ、次
号は100号を迎えるという、「横浜通信」に同封さ
せていただいている。

この度の震災による交通事情その他により、2月
と3月分を予定通り印刷できなかったもので、会員が、
この5月5日に全て印刷し、1～4月を一緒にお送り
した。

わたしは、点字印刷される前に、この記事を何時も
ペンディスプレイで読ませていただいている。今回も
1週ごとに送られてくるものを読んでいた。そして、
2011年4月2日の「流し雛」を読ませていただき
はじめた。

まず、この「流し雛」という文字に接してゾクつと
した。今年はいつまでも寒くて、「雛祭り」、「桃の
節句」という文字を読んでも、4月に入った今は、も
う雛祭りは過ぎたという感じは起こらず、むしろこの
寒さのためか、これらの言葉は自然であった。

鳥取の流し雛に代表される「雛流し」の、哀しく
も美しい風習のあることは聞いている。千代紙を人型
に象つて、人の汚れをその人型に託して、人は清めら
れるのである。

ためらうて汀みぎわ離れぬ流し雛 文

の句に接したとき、言いしれぬ悲しみがこみ上げてき
た。「何か」に思いを残している魂の叫びを聞いたよ
うに思えた。そして唐突に東北の天津波の壮絶な光景
が重なり合ってきた。エネルギーも規模も状況もまっ

たく異なるけれど、東北の大津波に流されていった人々は当然、流し雛人形ではない。生きている生身の人々が、助けを求めて必死に波から逃れようと抗いながらも、空しく、沖へ、海底へとさらわれていったのだ。海獣と化した海が立ち上がり、襲いかかって、街ごと、車ごと、船ごと飲み込んでしまったのだ。

流し雛袖をつらねてゆきたまふ 梅子

「袖をつらねて」とは、これまた静かな川の流れの中での千代紙人形なら美しい。けれどもそれはまさしく人形なのだ。悲しみを抱きながらも雛に仮託したものは、思いを切り離すことで、静かに祈りを込めて見送ることもできよう。しかし、現実の悲惨劇の中では、死にたくない、愛する人たちと生き続けたい、と生に向かって全力をしぼっていたはずだ。死との戦いが厳しいことを悟ったとき、せめて、愛する人が自分と同じ苦しみのただ中にいませんに！彼らの命をこの身に負うていきます、大切な人たちよ、強く生きていつてください、と激しい死闘の中で、瞬時にあれを思い、これを願い全てを祈りに凝縮したのではないだろうか？

津波の猛威を凝視していた人たち、あるいは、奇跡的に難を逃れることができた人たちも、胸が張り裂けんばかりの怒りと畏れに震えたことだろう。

捨て雛の片手見えをり雪の中
不先
日当りてさびしかりけり捨て雛
青邨
柴山に斑雪光れり捨ひいな
四峯

海に飲み込まれていった多くの人々は流し雛のように静かに漂っていったのではない。けれどもこの多くの人の中には、流れの末にたゆたい続けていった人もあるだろう。

捨て雛や濤しぶく巖の上に まち子
幾夜経む瀬音の崖の捨ひいな 貞

のような情景に、数年を経て、遠く離れた何所かで、誰かが偶然遭遇するかもしれない。

それは津波の犠牲者だけではなく、東日本震災全体の悲しみを飲み込んだ果ての霊沈めかもしれない。言うまでもないが、魂を慰めるだけで終わってはならない。人類全体の叡智を持ってこの犠牲の意味を活かすこと。そこからわずかずつでも確かな平安を得ていただくしかないと思う。

(ここに挙げた句は、高橋睦郎が、2011年4月2日の記事に挙げたものなから、わたしが心惹かれたものを選んだ。)

2011年5月21日(土)

東京漢点字 学習会報告

東京漢点字羽化の会 菅野良之

平成23年度 第1回 (第47回) 報告

1 日時 平成23年4月16日 (土)

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者 (省略)

4 使用教材 「漢点字講習用テキスト 初級編

第四回 (全十回) 漢点字編、墨字編

5 学習会内容

周知事項

岡田代表が視覚障害者として日本初の介護福祉士の資格を取得。

前回の復習

5 複合文字 (2)

3. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字 (3)

(49) 「団」 くにながまえ (レ下がり) 2・3

・5・6の点)と (テ) 1・2・3・4・5の点)で表す。

(50) 「導」 道 (ヒ) 1・2・3・6の

点)と寸 (シ) 1・2・5・6の点)で表す。

(51) 「付」 人偏 (ナ) 1・3の点)と寸

(シ) 1・2・5・6の点)で表す。

(52) 「府」 まだれ (ヨ) 3・4・5の点)

と寸 (シ) 1・2・5・6の点)で表す。

(53) 「寺」 土 (テ) 1・3・4・5の

点)と寸 (シ) 1・2・4・6の点)で表す。

(54) 「詩」 第2言偏 (エ下がり) 2・3

・5の点)と寺 (シ) 1・2・5・6の点)で表す。

今回の学習

・レーズライターにて「巴」「三つ巴」「二つ巴」「韓国の国旗」「卍」「逆卍」「邑」の字形を確認。

「巴」はハ、ともえと読み「巴里」は和名。

「邑」はユウ、むらと読み、部首の「おおざと」の元の形、国構えに巴から変化したもの。

(55) 「持」 手偏 (テ) 1・2・3・4・5

の点)と寺 (シ) 1・2・5・6の点)で表す。字式

は手偏+寺。音読みのジは呉音。熟語に「維持」「気

持」「堅持」「固持」「心持」「持主」「所持

持」「持参」「持家」「持ち越す」「持ち帰り」「持

て余す」「持ち腐れ」など。

(56) 「待」 行人偏 (ユ) 1・2・5・6の

点)と寺 (シ) 1・2・5・6の点)で表す。字式は

行人偏十寺。音読みのタイは漢音。熟語に「歓待」「招待」「虐待」「待機」「御待遠様(おまちどうさま)」「心待ち」「待合せ」「待ち草臥れる(まちくたびれる)」「待ち焦がれる」「待ち望む」「待ち人」「宵待草(よいまちぐさ)」など。

(57) 「等」リ下がり(2・3・6の点)と寺(シ・1・2・5・6の点)で表す。字式は竹ノ寺。音読みのトウは漢・呉音。名前の読みに「とも、ひとし」がある。熟語に「平等」「不等」「等級」「上等」「下等」「対等」「均等」「等価」「等閑(なおざり・いい加減)」「優等」「劣等」、建物に「平等院」、地名に「等々力」がある。

(58) 「時」リ下がり(2・3・6の点)と寺(シ・1・2・5・6の点)で表す。字式は日十寺。音読みのジは呉音。熟語に「半時」「一時」「今時」「片時」「往時」「時計」「時価」「時効」「時系列」「常時」「随時」「即時」「臨時」「定時」「同時」「平時」「戦時」「時雨」「小半時」「男時(おどき・運の向いている)」「女時(めどき・ついでいない)」「時鳥(ほととぎす)」など。

※ ほととぎすの漢字には、不如帰、杜鵑、霍公鳥、子規、杜宇、杳手鳥、蜀魂がある。

(59) 「年」リ下がり(2・3・6の点)とカ(1・6の点)で表す。字式はノ一・年。音読みの

ネンは漢・呉音。訓読みに「とせ」がある。上の部分は禾、下の部分は人を表し、収穫物を頭に乘せ舞い踊り祝う様を意味している。熟語に「永年」「往年」「享年」「新年」「旧年」「来年」「年輪」「年寄」「年増」「積年」「豊年」「忘年」「成年」「年貢」「万年青年」「万年青(おもと)」「光年(光が1年間に進む距離。約9兆4600億km)」、他に「年魚(あゆ)」などがある。

※ 魚の「あゆ」の漢字として鮎、香魚がある。
(60) 「秒」リ下がり(2・3・6の点)と(ソ・2・4・5・6の点)で表す。字式は禾十少。稲穂の先の尖ったところを「のぎ」といい、少よりも小の意味合いが強い。音読みのビョウは漢音。熟語に「寸秒」「秒速」「秒読み」「秒針」「每秒」「閏秒(協定世界時との差が大きくなならないように加える余分の秒)」などがある。

平成23年度 第2回(第48回) 報告

1 日時 平成23年5月21日(土)

18時30分～20時30分

2 場所 ヒューマンプラザ7階 第1会議室

3 出席者(省略)

4 使用教材 漢点字講習用テキスト初級編

第四回(全十回) 漢点字編、墨字編

5 学習会内容

前回の復習

(55) 「持^{●●●●}」 手偏(テ・1・2・3・4・5の点)と寺(シ・1・2・5・6の点)で表す。

(56) 「待^{●●●●}」 行人偏(ユ・3・4・6の点)と寺(シ・1・2・5・6の点)で表す。

(57) 「等^{●●●●}」 竹冠(チ・1・2・3・5の点)と寺(シ・1・2・5・6の点)で表す。

(58) 「時^{●●●●}」 日(リ下がり・2・3・6の点)と寺(シ・1・2・5・6の点)で表す。

(59) 「年^{●●●●}」 リ下がり(2・5・6の点)とカ(1・6の点)で表す。予祝で踊っている様を表す象形文字。踊っている様を象つたものとして、若、委、季がある。

(60) 「秒^{●●●●}」 リ下がり(2・3・6の点)と少(ソ・2・4・5・6の点)で表す。

今回の学習

5. 複合文字(2)

4. 第1基本文字と比較文字で

構成される文字(4)

※「里(4・5とリ・1・2・5)」をパーツとして含む文字5つ。

(61) 「量^{●●●●}」 日^{●●}(リ下がり・2・3・6の

点)と里^{●●●●}(リ・1・2・5の点)で表す。字式は日／一／里。音読みのリヨウは漢・呉音。訓読みに「かさ」、名前に「かず」がある。熟語に「水量」「推量」「雨量」「積雪量」「運動量」「音量」「度量」「量衡」「感無量」「感慨無量」「容量」「許容量」「器量」「酌量」「適量」「微量」「裁量」「軽量」「力量」など多数。

・「重」と重をパーツとして含む文字3つ。

(62) 「重^{●●●●}」 3・6の点と里^{●●●●}(リ・1・

2・5の点)で表す。字式は千・里。音読みのジユウは呉音、チヨウは漢音。名前に「しげ」がある。熟語にジユウとして「重症」「重体」「重役」「重税」「蔽重」「過重」「重厚」「重大」「重責」「重鎮」「体重」「鰻重」など、チヨウとして「貴重」「自重」「慎重」「軽重」「貴重」「珍重」「丁重」、訓読みとして「紙一重」「重荷」「二重」「幾重」「重ね着」「度重なる」など。音訓で構成された熟語に「重箱」(訓音で構成されたものは「湯桶読み」といい、「手本」「消印」などがある。)、寺院にある「五重塔」は地、水、火、風、空の五大を意味し5層に造つた、仏舍利を祀る塔。多層塔で最も多いのは「三重塔」である。都道府県の一つに「三重県」がある。なお「重複」は「ちようふく、じゆうふく」の読みがあるが、「じゆうふく」で辞書を引くと意味は「ちようふく」

を参照と表示される。

(63) 「種」 禾偏(ノ…2・3・4の点)と

重(リ…1・2・5の点)で表す。字式は禾偏+重。音読みのシユは呉音。訓読みに「くさ」がある。熟語に「一種」「異種」「各種」「業種」「接種」「雑種」「種別」「言種(いぐさ、草とも書く)」「語

り種(かたりぐさ、草)」「変り種(だね)」など。と力(又…1・3・4の点)で表す。字式は重+力。音読みのドウは呉音。音読みに「ややもすれば」がある。元は童+力、使役されるものが童で、力は畑を耕す道具を意味する。童のドウの読みがそのまま使われた。熟語に「自動」「運動」「能動」「受動」「不

動」「反動」「微動」「騒動」「鼓動」「起動」「振動」「始動」「発動」「動産」「動力」「動乱」「動員」「驚天動地」「妄動」「蠢動」「衝動買い」など多数。

(65) 「働」 人偏(ナ…1・3の点)と動(リ…1・2・5の点)で表す。字式は人偏+動。国字。熟語に「稼働」「実働」「重労働」「気働き」「只働き」「共働き」「怠け者の節句働き」「労働三法(労働組合法、労働基準法、労働関係調整法)」「労働三権(団結権、団体交渉権、団体行動権)」など。

左は、『常用字解』、『人名字解』の音訳を、全国の音訳者の皆様に呼びかける趣意書です。多くの皆様のお手を挙げて下さることを念願しております。なお初回の会合を、6/29(水)、14:00、墨田区立寺島図書館で予定しております。ご精読下さい。

『字解』音訳プロジェクト ご参加のお願い

2011年6月吉日

『字解』音訳プロジェクトチーム発起人会

山内薫、岡田健嗣、田中秀臣、木村多恵子

音訳者各位

日頃の視覚障害者の読書環境の改善への皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

私どもはこの度、横浜漢点字羽化の会による『常用字解』、『人名字解』(白川静著、平凡社)の漢点字訳の完成を機に、視覚障害者の漢字へのアプローチの幅をより広げられないかと、同書の音訳を試みたいと考えました。つきましては皆様のお力添えを賜り、このプロジェクトにご参加いただきたくお願い申し上げます。

この二冊を選びました理由は、白川漢字学の集大成である『字統』、『字訓』、『字通』の三部作を、より一般向けにコンパクトにまとめ、平明な文章で理解し易いため、視覚障害者も白川漢字学の門戸に歩を進めることができるであろうと考えたからです。この二冊は、体裁は漢和辞典ですが、その内容は極めて読み物に近いものです。作家の宮城谷昌光氏の言葉を借りれば、「漢字は歴史の窓」です。漢字の世界を楽しみながら歴史を遠望する、この二冊を読むことの楽しみはそこにあります。

漢点字が世に問われて既に40年余りがたちましたが、その普及は遅々として進んでおりません。またその理解者も、残念ながらその当初に比べても、増えていない現状です。しかし、漢点字書は、ボランティアの手で着実に製作されています。横浜漢点字羽化の会では、15年近くにわたって、漢字の理解なしには読解困難な本、あるいは漢字そのものに関する本の漢点字訳に力を注いで参りました。

その活動から分かったことは、漢点字は、漢字の要素を充分表現し得ているということです。言い換えれば、漢点字は漢字体系の触読文字であることを、事実として充分示し得ているということです。

さらに、この活動から分かって来たことは、先天の視覚障害者と後天の視覚障害者の漢字受容の実態と、

それに伴う様々な障害に関しての相違です。先天性の視覚障害者は、漢字の教育を受ける機会が閉ざされています。一般と異なり、初等・中等教育の課程で、漢字教育が行われていません。そのために、漢字の知識なしに、漢字仮名交じり文で表された文章を読むことを強いられます。

一方中途失明者は、一般の教育課程で漢字を習得し、漢字仮名交じり文の読み書きを経験しています。しかし失明とともに、その能力を失い、読書から受ける経験も、極めて狭い範囲に制限されることとなります。自らは漢字を知っていても、それを使えない状況に置かれ、その能力が徐々に減衰していくという危虞に見舞われておられます。

後天の視覚障害の方が、それまで培ってきた読書の経験を、如何に今後に生かせるか、この二冊の本の音訳を通して、漢字に対する知識を閉ざさないことが、大変重要と考えています。

現在、視覚障害者の読書は、音訳書に多くを依存しています。そこでこの二冊の漢点字訳の経験を音訳に生かして、まずは同書の音訳を目指したいと考えました。

『常用字解』、『人名字解』は漢和辞典です。しかしその特徴の一つが、これまでの漢和辞典とは異なっており、見出し字が音読の五十音順の配列になっているこ

とです。

音訳書のメディアは、現在デジタルのDAISYが主流となつています。視覚障害者にとってDAISYの特性は、速やかな検索機能にあります。DAISYの階層を利用して同書の五十音順の配列を検索すれば、何回かのキータッチで目的の漢字に行き着くことができます。

また漢点字版を製作するに当たって、採用した大きな特徴は「字式」の採用です。「字式」とは、漢字の構成要素の配置を、「+、/、>」や括弧という数字記号を使って表すものです。例えば「村」であれば「木偏+寸」、「守」であれば「ウ冠/寸」、「国」であれば「口(くに構え)>玉」と表します。このように漢字は、その構成要素とその配置が、その意味や読みと密接な関係にありますので、それを何とか理解できるようにしたいと案出されたものです。この「字式」のノウハウを音訳にも生かせれば、現在視覚障害者にとって困難とされる漢字の字形へのアプローチも、決して不可能ではないと考えます。

このプロジェクトを開始するに当たって、二つのプロセスが想定できます。一つは、読み方の統一です。何回かの打ち合わせと検討を重ねることで、皆様の貴重なご経験を加味しながら、よい方法を築けるものと考えます。もう一つは編集です。ご承知の通り、五十

音順の配列では、サ行の辺りに漢字が集中します。従って検索を容易にするDAISYの階層をどのように構築してゆくかが、案外面倒な作業になるかもしれません。これも皆様と共に試行錯誤を重ね、最もよいと思われる方法を見いだせるものと考えます。

『常用字解』は『人名字解』の規模の、およそ2倍あります。まずは『常用字解』の完成を2年と考えていますが、これはあくまで現在の時点でのことです。具体的な目標は、具体的に作業を開始するときに立てたいと考えています。

このような試みはこれまでになかったことです。趣旨をご理解いただいて、多数の皆様のご参加をいただければ、幸甚の至りでございます。

『字解』音訳プロジェクトチーム第1回打合せ

日時..2011年6月29日(水)午後2時~4時

場所..墨田区立寺島図書館3階視聴覚室

東京都墨田区東向島3-34-4

電話..361114610

皆さんふるってご参加下さるようお願い申し上げます。

参加申し込み、問い合わせは下記のメールアドレス又は電話までお願いします。

墨田区立あずま図書館 山内 薫

ki-tarow07@yahoo.co.jp

岡田 健嗣 03-3613-3160 八木沢療院内

「常用字解」と「人名字解」のデージーによる音訳を是非お願いいたします

「横浜漢点字羽化の会」の皆様のご協力により、上記二冊を漢点字で読めるようにしていただけましたことは大変な喜びです。けれどもこの二冊を現実に全部触読で読みこなすには大変な時間と労力を要します。したがって、この本の内容を全体として理解するために、どうしても音訳していただいたものを何度も聞かせていただきたいのです。まず、本の内容を十分に理解したいのです。

どんな内容が書かれているかを知り、さらに改めて自分が知りたい文字の意味や内容を確認するためには検索できることが大切です。そのためにデージー形式で作っていただけますれば辞書として活用が広まります。読み物であり、辞書として効果的に楽しませてくださいたいのです。

現実はこの二冊を音訳していただくには緻密な打ち合わせと根気が必要と思いますが、是非実行に移していただきたいのです。

皆様のご苦勞を知りつつもなお、音訳化をお願いしたいのです。どうぞよろしくお願いいたします。

「報告と」案内

一 お見舞い

去る三月十一日14・46に、東北・関東地方を襲った大地震は、壊滅的な爪痕を、現在もなおそのままに残しております。

被災地を訪れて物資を届けたり、ボランティア活動をして来られた方からのお話では、テレビや新聞の報道からは知られない、生々しい被害の実際を伺うことができます。壊滅とは正しく壊滅を意味する、喩ではない、その意味では言葉にならない状況が現出していることを、お聴きすることができます。目をつむると、その光景が浮かぶとおっしゃる方にもお会いしました。

しかし本当はこれからではないか、息の長い支援を如何に持続させるか、これはじっくり胸に問う必要がある、そう思わないわけには参りません。

被災地にお住まいだった、現在も同地の避難所に身を寄せておられたり、あるいは新たな居住地を求めて住み慣れた地を離れたりしておられる方々は、これから新たな日常を構築して行かなければなりません。その困難と心細さと、そして3・11以前の所有と関係



の喪失感は、想像を絶するものがあるに違いありません。

私たち非被災者にできること、行うべきことを、考え続けて行きたいと、戒めたいものです。

二 『常用字解』、『人名字解』の音訳

前号で呼びかけをさせていただきましたが、横浜漢点字羽化の会では『常用字解』、『人名字解』の漢点字訳を完成しました。

しかし漢点字をご存じない視覚障害者は沢山おられます。なかでも中途失明の方々は、漢字の知識は持ちでありながら、それを保持する手立てを失われておられます。

それを音訳という方法で補うことはできないか、これがこの呼びかけの発端です。

趣意書を収録致しましたので、ご精読賜りたくお願い申し上げます。

三 改訂・入力マニユアル

本会では、パソコンを使用して漢点字書を製作しております。その方法は、一般の文書を作るのと同様プロセスで文書を作って、最後に漢点字変換プログラムEIBRKWで変換し編集して、漢点字書として

読み易いものに仕上げます。

しかし一般の文書を作る要領だけでは、読み易いものにはなりません。

そこで、ごく基本的な入力方式をまとめました。EIBRKWをご使用いただいている皆様、是非お手元にお置きいただけますようお願い申し上げます。

四 研修

(有)横浜トランスファ福祉サービスでは、障害者の外出支援を行っております。そこで、よりよいサービスの提供を求めて、障害についての研修を実施することになりました。

受講対象は同社在籍者、羽化の会会員、そして本誌の読者の皆様とさせていただきます。

第一回は7月15日(金)、18:15～19:45、横浜市健康福祉総合センター会議室902号。

内容… 麻痺について

受講料… 無料

申し込み… 同社、あるいは岡田まで。

E-MAIL: okada_tr_eib@yhb.ne.jp

電話: 03-3613-3160 八木沢療院内・岡田

045-263-0306 横浜トランスファ

定員27名、定員に達し次第締め切ります。

漢文のページ

大魚の「鯤」と巨鳥の「鵬」

莊子

北冥有魚。其名爲鯤。

鯤之大、不知其幾千里。

也。化而爲鳥。其名爲鵬。

鵬之背、不知其幾千里。

也。怒而飛、其翼若垂天

之雲。是鳥也、海運則將

徙於南冥。南冥者、天池

也。齊諧者、志怪者也。諧

之言曰、「鵬之徙於南冥

也、水擊三千里、搏扶搖

而上者九万里、去以六月

息者也」

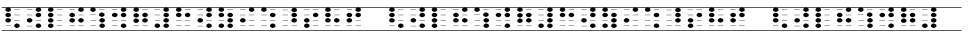
北冥（ほくめい）に魚有り。其の名は鯤（こん）と爲す。鯤の大きさ、其の幾千里なるかを知らず。化して鳥と爲る。其の名は鵬（ほう）と爲す。鵬の背、其の幾千里なるかを知らず。怒して飛ぶや、其の翼は垂天の雲の若し。是の鳥や、海運（うご）けば則ち將に南冥に徙（うつ）らんとす。南冥とは天池なり。齊諧（せいかい）は怪を志（しる）す者なり。諧の言に曰く、「鵬（おとり）の南冥に徙るや、水に撃つこと三千里、扶搖（ふよう）に搏（う）つて上がること九万里、去りて六月（りくげつ）を以て息（いこ）う者なり」と。

『莊子』（書物の時はソウジと濁る）逍遙遊篇は、冒頭の第一段落からいきなり大きな話ではじまる。

北の果ての海にすむ鯤という巨大な魚は、鵬という巨鳥となる。奮いたつて飛べば、そのつばさは海に垂れ下がる雲のよう。海面をゆり動かし、南の果ての海へと飛でいく。齊諧は奇怪なことを記す人物であるが、このように言っている。「鵬が南の果ての海に移動するときは、海面をたたくようにはばたきをするだけで三千里も飛び、旋風を起こしながら九万里の高さまで飛びあがる。そして、大空を飛行すること六ヶ月、ようやくひと息つく」

※「南冥者天池也」と「齊諧者志怪者也」は、

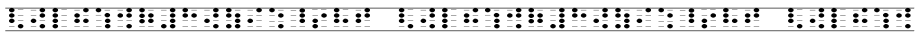
もとは注だったものが本文に混入してしまつたという説がある。



北 冥 二 有 リ 魚 。 其 ノ 名 ハ 為
 ス 鯨 ト 。 鯨 之 大 イ サ 、 不
 知 ラ 其 ノ 幾 千 里 ナ ル カ ヲ 也 。 化 シ
 テ 而 為 ル 鳥 ト 。 其 ノ 名 ハ 為
 ス 鵬 ト 。 鵬 之 背 、 不 知 ラ
 其 ノ 幾 千 里 ナ ル カ ヲ 也 。 怒 シ テ 而
 飛 ブ ヤ 、 其 ノ 翼 ハ 若 シ 垂 天 之
 雲 ノ 。 是 ノ 鳥 也 、 海 運 ケ バ 則
 チ 将 ニ 徙 ラ ン ト 於 南 冥 二 。
 南 冥 ト 者 、 天 池 也 。 齊 諧 者 、 志
 ス 怪 ヲ 者 也 。 諧 之 言 ニ 曰 ク 、
 「 鵬 之 徙 ル 於 南 冥 二 也 、 水
 ニ 擊 ツ コト 三 千 里 、 搏 ッ テ 扶
 揺 ニ 而 上 ガ ル 者 九 万 里 、
 去 リ テ 以 テ 六 月 ヲ
 息 フ 者 也 」 ト



『朗読してみたい中国古典の名文』
 (渡辺精一・祥伝社新書) を参照、
 多くを引用させていただきました。



漢点字講習用テキスト

初級編 第二十六回

4 基本文字（3）… 比較文字

比較文字の近似文字

(1) 斥[㇀]_㇁_㇂ セキ しりぞ-ける うかが-う

「斥[㇀]_㇁_㇂」の〈近似文字〉です。「斥[㇀]_㇁_㇂」の右側の縦の線に、小さな点を加えた形です。おので断ち割る意味があります。「斥力、排斥」と用いて、「しりぞける」の意味を、「斥候」（軍隊の行軍で、先を見る役目）と用いて、「うかがう」の意味を表します。漢点字では、「[㇀]_㇁_㇂」で表されます。

「斥力」「斥候」「排斥」「除斥」

(2) 丘[㇀]_㇁_㇂ キュウ おか

「升[㇀]_㇁_㇂」の〈近似文字〉です。土地の盛り上がった小さな山のことで、元は、天辺が窪んだ、盆地の意味がありました。また古くは、土を高く盛り上げた墓も指しました。漢点字では、「[㇀]_㇁_㇂」で表されます。

「丘陵」「墳丘」「段丘」

比較文字に類似した文字

ここでご紹介する文字は、〈比較文字〉ではありませんが、墨字の字形に共通する所があったり、漢点字の字形が指事的であったり、〈比較文字〉と性格を共有する文字です。

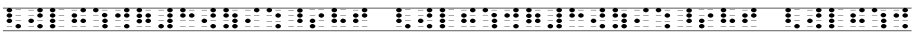
ここでは、二組・四文字をご紹介します。

※「乗」と「垂」。

*この二つの文字は、原字は異なりますが、常用漢字では、上の部分が同じ形をしています。下に、「乗」では「木[㇀]_㇁_㇂」が、「垂」では「土[㇀]_㇁_㇂」が置かれます。

(1) 乗[㇀]_㇁_㇂ ジョウ の-る の-せる

この文字の上の部分は、人が足を交差させて踏ん張っている形を象っているとされます。その下に、「木[㇀]_㇁_㇂」を置いた形です。「のる、のせる」とは、人が乗り物や馬にのることです。「のせる」と読んで、人をその気にさせること、「じょうずる」と読んで、弱みにつけ込む意味にも用いら



れます。また、計算の方法、「かけ算」の意味も表します。同じ数を上へ上へと積み重ねて行く、その計算法を言います。漢点字では、天辺のカタカナの「ノ」の形を「𠄎」で、「木𠄎」を「𠄎」で表します。

「乗車」「乗降客」「乗馬」「乗用車」「加減乗除」「二の二乗は四」「乗合馬車」「馬乗り」「乗っ取る」

(2) 垂𠄎𠄎 スイ た-れる た-らす

「乗𠄎𠄎」の上の部分の下に「土𠄎」を置いた形の文字です。上の部分は「乗𠄎𠄎」とは異なって、穀物の穂が実って垂れた形を表しています。「たれる、たらす」と読んで、上から下へものが垂れ下がる、上から下へ真っ直ぐに垂れる、液体が垂れ落ちる、上から下へ下賜する、申し伝える等の意味があります。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

「垂直」「枝垂れ桜」「雨垂れ」「虫垂炎」

※「浮」と「沈」。

*この二文字も〈比較文字〉ではありませんが、意味の上と漢点字の符号から、グループとして理解されます。

(3) 浮𠄎𠄎 フ う-く う
-かぶ う-かべる

「さんずい」の右側にカタカナの「ノ、ツ」、その下に「子𠄎」を置いた形の文字です。カタカナの「ノ、ツ」とその下の「子𠄎」は、手で卵を育んで孵す形を表しています。そっと卵を抱える形から、水の上を漂うという意味が生じました。水の上の浮き草のように、空の雲のように、当てもなく漂っている様子を表しています。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

「浮漂」「浮動票」「浮き世」「浮き草」「浮き雲」「浮き輪」

(4) 沈𠄎𠄎 チン しず-む しず-める

「さんずい」の右側に、「人𠄎」が置かれて、その首の辺りに、ワ冠を配した形の文字です。古く、牛を犠牲にして、水に沈めたことに由来した文字です。「しずむ、しずめる」は、水に沈める、心静かにものを思う、心が浮かかないという意味に用いられます。漢点字では、「𠄎𠄎」で表されます。

「沈黙」「沈思黙考」「沈潜」「沈鬱」「沈殿」「沈没」「浮沈」

編集後記

▼当誌「うか」は当会の広報媒体として大きな存在となっております。しかし、紙媒体として

しての「うか」は配布先も限られ、ごく少数の関係者にしか行き渡りません。そこで当会では、ホームページを設置してWEB版「うか」としてご利用いただきたいと念願しています▼このたび、サーバーを提供している業者の都合により、このサーバーの利用が来年5月までということになりました。ついては、サーバーを変更することになりますので、今後は新しいアドレス (<http://www.ukanokai-web.jp/>) で当会のホームページをご利用ください。このホームページでは、羽化の会の生い立ちから漢点字の基礎に関する資料をご紹介します。また、「うか」の内容紹介をもう1つの主要な柱としています。ここでは「うか」の最新号の内容を紹介するとともに、バックナンバーを少しずつ遡って紹介しており、最終的には創刊号まで収録するような計画を進めています。しかし、その計画を達成するにはまだかなりの時日を要するようで、その点はお許しをお願いいたします。

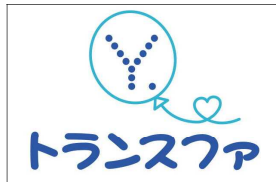
(木下 和久)

(有) 横浜トランスファ福祉サービス

障害者自立支援法の下、障害者にガイドヘルパーを派遣して、外出を支援しています。対象は、横浜市在住・在宅の、視覚・肢体・知的重度障害者。

常時募集・ガイドヘルパー：資格・ホームヘルパー2級以上、および視覚・肢体障害者移動介護研修修了。

業務概要：上記障害者の外出支援。詳細は担当・柳田まで。



〒231-0063横浜市中区花咲町1-46-1

GSプラザ桜木町1104

電話： 045-263-0306

FAX： 045-263-0316

E-MAIL (岡田健嗣) : okada_tr_eib@ybb.ne.jp

横浜漢点字羽化の会 URL : <http://www.ukanokai-web.jp/>

《表紙絵 岡 稲子》 次回の発行は8月15日です。

※本誌(活字版・DAISY版・ディスク版)の無断転載は固くお断りします。